

第1回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る  
検討委員会 議事録（概要）

秋田県教育委員会

## 第1回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る検討委員会議事録（概要）

- 期 日 令和元年7月1日 月曜日
- 場 所 秋田県地方総合庁舎6階 総601会議室
- 開 会 10時00分
- 閉 会 12時00分
- 出席委員 高橋 秀晴 田仲 誠佑 石郷岡仁司 野村 重公  
稲荷 一清 鈴木 康 安田 浩幸 菅原 勉  
檜尾 尚樹 難波 文彦 古谷 昌規 石嶋勝比古

### ○ 教育庁（事務局）出席者

教育長	米田 進	教育次長	渡部克宏
義務教育課長	石川政昭	高校教育課長	伊藤雅和
義務教育課副主幹	畑 朋幸	高校教育課副主幹	荒川正明
高校教育課副主幹	藤澤 修	高校教育課副主幹	下橋 実
保健体育課副主幹	高田屋馨	高校教育課主任指導主事	能美佳央
高校教育課主任指導主事	勝又貞臣	高校教育課指導主事	竹村竜祥
高校教育課指導主事	根守 潤	高校教育課指導主事	柏谷浩樹

### ○ 次第

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 教育長による諮問
- 4 委員紹介
- 5 協議
  - (1) 現行の入学者選抜制度について
  - (2) アンケート調査結果について
  - (3) 質疑応答
  - (4) 今後の予定について
  - (5) その他
- 6 閉会

## 第1回秋田県公立高等学校入学者選抜に係る検討委員会

### 協議の要旨

#### 1 事務局による説明

##### (1) 現行の入学者選抜制度について

- ・現行の入学者選抜制度は、平成17年度から実施している制度が土台となっている。平成16年度以前は推薦入試と一般入試を実施していた。
  - ・平成17年度からの入学者選抜制度における大きな変更点は、次の2点。
    - ①通学区制を廃止し、全県一区にすることにより、受検生の進路選択の拡大を図った点
    - ②前期選抜、一般選抜及び後期選抜を行い、複数の受検機会を設け、様々な観点や規準による受検生の資質・能力の評価を図った点
- それまでの推薦入試と前期選抜の大きな違いは、各高校が示す「出願の条件」を満たしているかどうかを、生徒自身が判断して出願できる、いわゆる自己推薦型であること。
- ・平成25年度からは、後期選抜を廃止し、志願者が最も多い一般選抜の枠を広げ、定員に満たない学科において、2次募集を実施。  
また、前期選抜に学力検査又は口頭試問を導入した。
  - ・「学力の保障の観点からの課題」について
    - ①中学校では前期選抜後、前期合格者と不合格者、一般選抜受検者が混在することで、指導上の困難が生じていること。
    - ②入学者選抜に関する業務が長期にわたることにより、受検生への負担が大きいことに加え、中学校・高等学校双方の教員への負担も大きいこと。
    - ③前期選抜の実施時期が大学入試等の時期と重なるため、特に高等学校では3年生への指導時間の確保に苦慮していること。
    - ④2次募集の実施時期が3月下旬であることから、中学校・高等学校双方において、次年度の準備等に遅れが生じ、教育活動に影響を及ぼしていること。

##### (2) アンケート調査結果について（別紙資料参照）

アンケートの結果から、中学・高校とも、入試制度そのものには概ね満足しているという結果が出ているが、前期選抜については、生徒の学力保障という視点から実施時期や選抜方法等について課題が見られる、という結果が出ていると考える。

#### 2 委員からの質問

- ・アンケート結果について、地区別の特徴はあるか。  
(事務局) 中央地区は学校の規模が大きいために、前期選抜では受検生一人一人の指導に時間がかかっているのではないかと考えている。
- ・「前期選抜はぜひ必要だ」という意見はあったか。  
(事務局) 強い意見は特にはないが、受検の機会が複数あるということについて、一定の評価は頂いていると感じている。

### 3 委員からの意見

- ・親の立場としては、3回機会があったほうがいいな、と感じている。
- ・前期選抜に関しては、高校としては、主に体育的・文化的な活動で頑張ってきた中学生を選抜するというので、いい選抜だと考えている。
- ・前期選抜を受けられるのは全員ではないので、全ての受検生に平等に開かれた3回ではない、と言えるのではないかな。
- ・以前に比べると前期選抜にチャレンジする生徒が増え、生徒数が多い学校では、書類作成の指導や面接練習にかかる時間等、先生方も相当な負担になっていると思う。また、受検教科（国語、数学、英語）はいいが、受検教科ではない2教科（理科、社会）がなおざりにされるという状況はあると思う。
- ・前期選抜で合格が決まった後、どうしても緊張感が薄まるということはあると思う。
- ・3回チャンスがあり、最後に2次募集があることで、学力面で頑張ってきた生徒が、以前の入試制度よりは救われるシステムになったと思っている。
- ・前期選抜は高校の活性化にもつながるが、送り出す中学校側の指導も大変であり、また受け入れる側も、1月から3月末までずっと高校入試があり、それに並行して大学受験の指導と、長期にわたり気が抜けないという負担感はあると思う。
- ・高校側から見た前期選抜の良さとして、学力面で入ってきた生徒は非常に優秀であること、部活動面で入ってきた生徒は高校でも活躍していることが挙げられる。一般選抜だけでは判断できない力を判断できるのが前期選抜だと思う。
- ・特別活動で評価されて入ってきたが基礎学力が不足している生徒の中には成績不振で部活動が制限されたり、進級ができず最終的に学校をやめざるを得なくなる生徒も時々出ている。
- ・前期選抜における様々な課題の中で大きなウェイトを占めるのは、部活動と学業の両立に尽きるのではないかなと思う。中学校側も責任をもって参加しなければならない入試制度だと思う。
- ・学校の統廃合が進んでいるような地域では、高校の定員を満たしていない状況がある。定員を確保するためにも前期である程度合格させないといけないということもあり、これは地域的なバランスの問題でもあると思う。